

第72回しずない農業協同組合通常総会開催

全8議案原案通り可決される



冒頭挨拶において、西村和夫代表理事組合長より「本総会につきましては、皆様もご存知の通り新型コロナウイルスによる感染拡大によりまして、道内においても感染者が多数発生しているということで、組合員皆様のご協力の下、また、来賓各位のご理解によりまして、本総会を開催させていただきます。

総会資料などを事前に配布し、職員からの丁寧な説明をさせて頂き、ご理解頂いた上で本総会に望みたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

日本を取り巻く農業情勢は、国際的にはTPP11の発行から1年が過ぎました。また日米貿易協定は今年1月1日に発行され、EPAやFTAと国際貿易がより一層の変化が進み、それに加え、アラブ地域の政情不安が相まって、予断の許されない状況となっております。

また、昨年10月から消費税率が10%へ増税となり、私たち農業者にとっては何れを取っても生産活動にとって不安材料の多い年となっております。そして、年が明けて現在騒動となっている新型コロナウイルスが世

界中に感染拡大し、日本経済はもちろんのこと、世界経済にも影響を及ぼす甚大な災害状況となっております。今年の我々の農業に対しては、大きな試練となることが予想されるところです。

さて、昨年の当JAの農業生産の状況は大きな自然災害もなく、各作物とも豊穡の秋を迎えることができたと考えています。しかしながら生産量が多い中で価格がなかなか上がらない状況でもありました。

水稲につきましては、作況指数106ということで、概ね天候に恵まれ高品質な米を収穫することができ、作付面積83haで金額7,100万円の販売高となりました。また、7月1日には待望の地酒「海桜丸」がお披露目され、多くの町民の皆様にご愛顧いただいております。今年度も2年目の地酒として、直にお披露目出来ることとなっておりますので、引き続きご利用頂きたいと思えます。

青果では、昨年は好天に恵まれ、生育は良好に推移し、特にミニトマト「太陽の瞳」の収量は、一昨年を上回る結果となりましたが、販売単価が安価で推移したため、取り扱った金額もそれほど伸びず、10億円の計画の中、9億1,300万円となりました。目標には届きませんでした。

だが、昨年に引き続き9億円を突破できたことは喜ばしいことだと思えます。本年も1組の新規就農が予定されており、今年こそは10億円の突破を目指したいと思えます。その他、大玉トマト、ほうれん草などで青果全体としては10億円を超える販売高となりました。

酪農については、乳価が100円台と高い水準で推移し、販売金額も昨年同様の3億6,300万円の取扱実績でした。乳価が安定している中で、町営牧野を有効利用しながら生産活動を進めていきたいと思えます。

黒毛和牛については、引き続き市場評価が高く当JA取扱い素牛の平均価格のうち去勢で83万円、雌で72万円と一昨年とほぼ同じ価格で推移しており、年間の販売金額は906頭で6億5,900万円となり、4年連続で6億円を突破しています。

しかしながら、購買者である肥育農家が出荷する枝肉が輸入牛肉の影響を受けている市場状況であり、今年度においては素牛の生産費に十分に注意を払いながら市場動向を注視していきたいと思えます。

基幹産業である軽種馬については、昨年の市場販売頭数および販売額が397頭で34億7,500万円で、昨年より54頭、5,839

4月9日、新ひだか町公民館において「第72回しずない農業協同組合通常総会」が開催されました。今年度の総会につきましては、新型コロナウイルスの世界的大流行により、感染拡大防止のため、原則として書面議決をいただき、来賓各位をお招きせず開催致しました。